

178万円問題について

私達国民の為に国の組織があります。行政・司法・立法と三権分立が民主主義の基本原則です。行政も司法も官僚組織です。官僚組織と緊張関係を築けるのが立法府の国会議員です。10月の衆議院選挙で与党（自民党・公明党）は過半数を割り込みました。その現象を混乱と見るか緊張関係と見るかは我々国民の責任だと思います。私達の為に組織で有ることは当たり前ですが、その当たり前が出来ているのでしょうか。

歳入と歳出が有って国の運営が出来ていますが、その中で積極財政派と緊縮財政派に単純に別れている様に見えますが本当にそうでしょうか。

結論から言います。今の日本の全てのシステムは永年の事実上自民党の一党独裁体制の為に制度疲労が進んでいる様に思っています。

私達は民主主義体制で生活しています。と言うことは議論を尽くした後は多数決を取るのが原則の筈ですが、永年の課題を先送りした結果が今の閉塞状況を招いているのではないのでしょうか。

昨今AIが発展して我々の生活を変えようとしている時代です。日本にはスーパーコンピューターがあります。様々なデータを入力したら財政の事は解るのではないのでしょうか。それを元に議論をすべきではないのでしょうか。それでも歳入不足になるのなら、赤字国債を発行してでも今の閉塞状況を打破する為にも178万円問題に決着を付けて欲しいです。

服部商店とは

- ① 出来る限の産地標示。
- ② 開かれた価格提案。
- ③ 不要な流通を少なくした仕入れ。
- ④ 乾燥材（人工・天然）の提供。
- ⑤ 幅広いラインナップ。
- ⑥ 自家工場。
- ⑦ 敷地内で積み卸し出来るスペース。
- ⑧ 行き届いた管理。
- ⑨ 女性が活躍出来る職場。
- ⑩ 新しい材木屋を目指す志。

服部雅章が単純に自社を解剖しました。大よそ10項目になりました。自慢するようなものは有りませんが、これが服部商店だと思います。

服部商店の目標は生き残るのではありません。マーケットから必要とされる材木を扱うお店作りです。もしかすると材木屋と言う名前を超越した会社に成長出来ればと考えています。服部商店の扱っている無垢材のマーケットは2025年に大きく様変わりする可能性があると考えています。

トランプ新大統領が如何なる形でもウクライナ危機を解決したら、ヨーロッパは復興需要の為に景気回復する可能性は大きいと思います。その時価格も厳しい品質も厳しい日本のマーケットは、今以上のインフレになると考えています。

インフレの頃を覚えている時代に生まれ育ちました。服部商店は従来から購入して頂いている方を大事にすることを実行します。それが新しい服部商店だと考えています。

旭川銘木市は新しい指針だと考えています。

2024年11月15日に開催された第480回北海道産広葉樹銘木市売りに参加してきました。結論から言えば、混とんとしているのが現実だと思います。

11月5日と6日に静岡にて開催された突板の展示即売会が催されて盛況で終わったとお聞きしました。凄く良い内容の展示会だったそうです。しかし市に出せない二級品の在庫処分を考えたら、はっきりとした具体的事案は言えないが、原木を販売している業者（突板業者に原木を販売している方の意見です）のお話は、結果から見たらチャラではないかと仰っていました。

ところで今回の市に1本の櫓の立木が出品されていました。その木は3本に切断されて出品されていました。元・中・末です。一番元は芯が腐っていました。その末は外観の節が一部に出ていました。一番末は最も見栄えが良かったです。

小生の評価は以下です。

| | | 長さの優劣 | 材質の優劣 | 木本来の優劣 | 単価 |
|---|---------|-------|-------|--------|----|
| 元 | 1.8メートル | △ | ○ | ○ | 高 |
| 中 | 2.4メートル | ○ | △ | ○ | 高 |
| 末 | 4メートル | ◎ | △ | △ | 超高 |

北海道の森林から見たら本当の優良材は枯渇（東京大学演習林を除く）したと感じています。その中であって激烈な競争が有ります。資本主義体制を選択しているので仕方がないとは思いますが、北海道産材・東北産材・北米産広葉樹の3つの産地の材を扱っているから継続して商いは可能ですが、10年昔にアメリカ材を直接仕入れに変更したお陰で北海道産材も扱えると考えています。

広葉樹はナラ材とタモ材がメインの商材です。国内産の優良材が枯渇している。ロシア材も戦争の影響で入って来ない。そして超円安と来ています。

施行現場から見ると、無垢材を含めて木質系建材を使用するのが難しくなるほど建築費は高騰しています。その中に有って、仕入競争・販売競争が激しさを増しているのが昨今の状況だと感じています。

北海道産の素晴らしい原木は2025年1月に出品される予定の東京大学演習林材がクライマックスです。12月は北海道の道有林も出品が予定されています。そしてウイスキーの樽を必要としている業者が大挙して次回の市に参加すると聞いていますし、アメリカ国内においてもホワイトオーク材の樽の注文も例年並に来てると聞いています。

如何なる状況でもコンスタントに弊社の材を御購入頂いている御客様にはご迷惑を掛けない様にしていきますから、安心して物作りに励んでください。



盛岡市・変貌する流通と材木屋の法令順守

2024年11月21日に開催された岩手県産の広葉樹の市に参加しました。服部商店の東北材の位置付けは北海道に無い、若しくは少ない樹種【ブナ・トチ・ミズメ・クリ・ケヤキ】を中心に北海道産に劣らないナラ材を集荷することです。

今回買い付けた樹種はナラ・ブナ・サクラ・ミズメ・イタヤ・クリ・クルミ・トチ・ケヤキ・トネリコ・オノオレカンバ・アサダ・エンジュ・シナ・ウダイ・ホオ・クワ・カヤ・タモの19樹種およそ50㎡です。

昨年迄は東北材を買いに来る業者の数も限られていましたが、現在の状況は日本中の業者が集まる市に変貌しています。下記は客観的事実です。

- ① 北海道の業者が東北に出向いて集荷しています。
- ② 東北の業者が北海道に出向いて集荷しています。
- ③ 突板業者迄参入しています。

服部商店の考え方はあくまで他の産業と同じ様にすべきだと思います。

- (1) 産地標示
- (2) トレーサビリティ
- (3) 品質標示

上記3つが出来ていれば、何れの業者が何をしようと構わないとは思いますが、服部商店はしっかりと法令順守を行っています。

ところで昨年と今年の違いは、ナラ材の東北材の価格上昇です。色が少し黒く目合いも少し荒い材は除いて、東北産でも北海道産に近い材質の原木単価は、北海道産に比べると昨年比70%位で購入出来ましたが、今シーズンは90%以上の単価を出さないと購入出来なくなっています。その理由は円安の為だと考えています。

世間では、一部にケヤキをもっと多く使いたいと言う動きがあることは承知していますが、服部商店は3年前から少しずつチャレンジしています。しかしケヤキの材質の特徴(予想外の割れの発生・予想外の材の変形)をまだ十分に把握出来ていません。

- ① マーケットから要望される品質に見合う原木の調達方法(品質と価格)。
- ② 製材方法 板目と柾目の取り合わせ方と、板の歪に合わせた製材サイズの設定。
- ③ 乾燥方法。天然乾燥の期間と人工乾燥の組み合わせ。

まだ少し時間が掛かるか解りませんが、2025年中には目途を立てたいと考えています。

円安を放置しているのは政府の責任ですが、はっきり言って日本の国力の低下が招いた現象だと考えています。その事を頭に入れたら、ケヤキを使わないという選択肢は有りません。



服部商店 クリスマスプレゼント

服部新聞ご購入者様限定です。

2024年12月1日～12月25日の1か月間に、服部商店の全ての商品の中から110,000円（税込）以上御購入して頂いた方5名様に、専門家向け雑貨 ものづくりブロック（世界の16選）を抽選で差し上げます。発送は年末12月26日です。

この商品は、そうぞうざっか (<https://www.sozozakka.net/>) のオンライン通販で販売しています。



専門家向け雑貨 ものづくりブロック（世界の16選）

〒596-0011 大阪府岸和田市木材町 16-1

株式会社 服部商店

代表取締役 服部雅章

TEL. 072-438-0173